



平成 23 年 2 月 15 日

各 位

会 社 名 ラオックス株式会社
 代 表 者 名 代表取締役社長 羅 怡文
 (コード番号 8202 東証第2部)
 問 合 せ 先 管理本部長兼 洪 東
 経営企画室長
 (TEL 03-6859-3802)

通期業績予想値と実績値の差異及び特別利益と特別損失の計上に関するお知らせ

平成 22 年 11 月 12 日に公表いたしました通期の業績予想値と実績値の差異をお知らせするとともに、特別利益と特別損失の計上をいたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想値と実績値の差異

(1) 通期業績予想値と実績値の差異 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 12 月 31 日) 単位：百万円

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	連結当期純利益	1株当たり連結当期純利益
前回発表予想 (A)	10,000	△110	△70	30	円銭 0.11
今回の実績値 (B)	9,431	△243	△184	△49	△0.19
増減額 (B-A)	△568	△133	△114	△79	—
増減率 (%)	△5.7	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 22 年 3 月期)	9,693	△2,124	△2,050	△2,536	△14.45

(注) 当期は決算期変更の為、9か月決算となっております。

(2) 業績予想数値と実績値の差異が生じた理由

- ① 売上高の差異に関する主な理由は、観光客の落ち込みが年末にかけて回復しなかったことと、PB商品の投入時期が仕様の変更や各種検査等により遅延したことによります。
- ② 営業利益の差異に関する主な理由は、売上高の減少によるものが大きく影響しておりますが、その他としては不動産事業のリーシングが景気低迷により計画通り進捗しなかったことやPB商品の輸入検査費用等の先行、来期の事業展開に向けた人材の採用が予定よりも早く進行していることがあります。
- ③ 経常利益の差異に関する主な理由は、為替差益により若干の改善があったものの、売上高の減少による営業利益の減少と売上高の減少による仕入割引の減少が大きく、結果的に差異が生じることとなりました。

- ④ 当期純利益の差異に関する主な理由は、店舗閉鎖による失効ポイントの引当金の戻し入れにより 21 百万円改善したこと及び売上高の減少に伴う営業利益、経常利益の減少に伴うものです。上記理由により通期の営業利益、経常利益、純利益が予想を下回る実績となりました。

2. 特別利益と特別損失の計上について

連結対象子会社である㈱庄子デンキについて、平成 20 年 3 月期までに、投資損失引当金 2,241 百万円を計上しておりましたが、(平成 19 年 11 月 16 日付公表「特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ」及び平成 20 年 5 月 19 日付公表「特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ」参照) 当期をもって営業を中止する見通しになりましたので、投資損失引当金 2,241 百万円の戻入を行いました。

また、当社グループの迅速な再編を実現するため、同社株式について当社以外の全株主様の保有分について、総額 1 百万円により買取を行いました。

これにより、投資損失引当金の取り崩しによる特別利益 2,342 百万円が発生し、かつ既存取得分と今回の取得分を合算した 2,242 百万円の減損処理による特別損失を計上いたしました。

3. その他

上記連結対象子会社である㈱庄子デンキの営業を正式に中止する決議等の取決めがなされた場合に改めてお知らせいたします。

なお、本業績予想の数値は発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上